

マクロ撮影の基本



マクロ撮影とは、より細かいものを撮影することです。小さな花に近づいて撮ると、ピントが合わなかったり、ブレてしまったり、露出が合わなかったりで撮影テクニックも少し大変になります。でもこれをこなせるようになると、何を撮ってもうまいくようになります。ここではマクロ撮影に必要な点、テクニックなどを紹介しましょう。

■ 撮影に準備するもの

カメラ	オートを外してマニュアルモードがあるカメラ。モード切替（マクロモード）ができるカメラ。
レンズ	マクロレンズ、クローズアップレンズ、接写リング
三脚	小型のもの、開脚ができる三脚
反射板	光を反射させ影を作らないようにするもの。自作でもできる。
ストロボ	単体ではなく2灯。リング式ストロボなど。
レリーズ	三脚に取り付けた際に使用。
グレースケール	グレーの板（露出を測るときに使用）
ホワイトボード	ホワイトバランス・プリ設定で使用

■ 撮影テクニック

ピント合わせ	ピント（フォーカス）は、雌しべに合わせるのが基本。どの辺までピントをもっていくかによって絞りを調整する。オートフォーカスを外し、手動で合わせる。
風がある場合	絞りを開放（開ける）、ISO感度を上げる、これによってできるだけ速いシャッターで切る。露出外はもっての他。
露出（測光）	ヒストグラムを必ず確認する。左右に外れないようにする。
グレースケール露出	花の前にグレースケールをもっていき、露出する。
白っぽい被写体は	白っぽい被写体はややアンダー露出をする。白飛びを防ぐため、レタッチによって完成させる。
ホワイトバランス	野外であれば「晴天」「曇天」モード。光の内容によって変える。オートが良い場合もある。
ホワイトボードWB	花の前にホワイトボードをもっていき、その場のWBを計測し一時記憶させる。（機能のあるカメラ）
画面構成（構図）	上記の写真のようにバランスを考えて構成する。花には顔がある。その顔が向いている方に配分を多くするのが基本。
背景の処理	背景はボカすが、より複雑なものを避ける。